

上田市公文書館だより / 第6号

■公文書館から

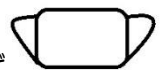
“アーカイブズ”に“アーキビスト”を？

●公文書館のことを英語で「アーカイブズ」といい、公文書管理の専門職のことを「アーキビスト」といいます。あまり聞きなれない言葉ですね。国立公文書館では、我が国のアーキビスト養成のため「認証アーキビスト制度」を新たに設けました。●同館館長によりますと『アーキビストとは公文書の価値判断をする目利きで、その公文書が歴史資料として重要かどうか評価・選別し、保存した資料の閲覧やレファレンス業務を担い、公文書全般について幅広い役割を果たす専門職』とのこと。●我が国の公文書館の歴史は博物館や図書館に比べて浅く、公文書を歴史的資料として、専門施設である公文書館に保管するようになったのは最近のことです。そして、公文書館がその機能を存分に発揮するための担い手がアーキビストです。●博物館に学芸員、図書館に司書、“公文書館にアーキビスト”の組み合わせがごく普通となるのもそう遠くはないことだと思います。(土屋)

■公文書館の催し ※マスク着用でご参加ください

企画展示「大正時代の上田とスペイン風邪の流行」を開催中

内容：上田市公報（上田橋竣工開通式・上田市民大学）、議会資料の流行性感冒記録など



◎期 間 令和2年12月5日（土）～ 令和3年3月14日・公文書館ロビーにて

◎説明会 2月7日（日）・3月6日（土）※募集は令和3年1月27日（木）から

■公文書館のご案内



●住所&電話

〒386-0413

上田市東内 2564-1

TEL0268-75-6682

FAX0268-75-6683

●メール

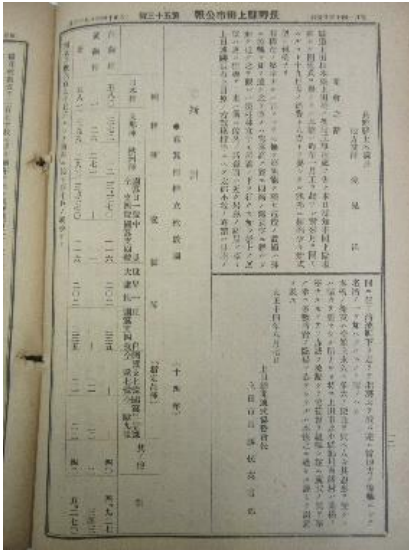
kobunshokan@city.ueda.nagano.jp

●ホームページ

上田市ホームページ内

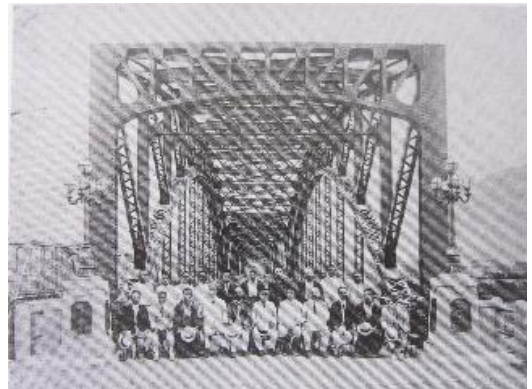
■公文書館所蔵資料の紹介

「上田橋竣工開通式並に祝賀式」(大正14年)



●大正14(1925)年8月15日付の「上田市公報」には8月7日に開催された「上田橋竣工開通式並に祝賀式」の記事があります。●最初の上田橋は明治23(1890)年に木材と鉄を用いて建設され、橋台がレンガ造の3連橋の橋でした。明治25年に千曲川洪水で損壊し、明治28年に2連増加された5連橋として復旧しました。●その後、上田橋は洪水による橋脚の傾きや老朽化が進み、交通量も増えたため、大正12年12月12日に新橋の建設が起工されました。当時の市長は細川吉次郎氏で、大正10年の上田市と城下村の合併の条件となっていた上田橋改築に着手しましたが、細川市長は大正13年5月に病気で死去しました。●同年7月に勝俣英吉郎氏が二代目市長に就任し、上田橋建設事業を引き継ぎ、

1年8か月をかけて大正14年8月に鋼鉄製のタイドアーチ式(注)4連橋が完成しました。橋床は鉄筋コンクリート造、橋脚もコンクリート造で当時最新式でした。●新橋の総延長は668フィート2インチ(約203.8m)、有効幅員18尺(約5.5m)、工費総額は28万1,751円73銭でした。当時の1円を現在の5,000円として換算すると14億876万円程度となります。●この改築事業は、県の道路改良計画に基づく上田松本線の工事として県費事業で進められました。上田橋の開通は、川西10か村(川辺・泉田・室賀・浦里・青木・東塩田・西塩田・別所・中塩田・富士山村)にとって待望の出来事でした。●8月7日の開通式では、県知事、勝俣市長の挨拶、三組の夫婦そろっての渡り初めなどが行われ、市内では祝賀のために常田獅子・房山獅子が舞い、屋台が練り歩くなど、大変なにぎわいとなりました。(倉澤)



(注) アーチ構造を持つ橋の一種

■公文書館の利用 ※公文書館は入場無料、郷土博物館展示室は有料(大人100円)



- **資料検索**：目録検索システムをご利用ください。
- **閲覧申込**：所定用紙でお申込みください。一度に5点まで申込みます。メールやファックスの申込みも可
- **資料閲覧**：個人情報等の審査終了後、館内閲覧室でご覧ください。館外への貸出しは行いません。

※審査に時間を要する場合があります。個人情報が含まれる資料は閲覧できない場合があります。目録検索システムの利用・閲覧申込書ダウンロードは上田市ホームページ内の公文書館ページからどうぞ。